

【別紙】

◆R8年度TSUNAGIプロジェクト連携事業一覧（新規）

Ⅰ 大学提案

番号	大学名	所属	教員名	テーマ	概要
1	佐賀大学	教育学部	大石 寛	佐賀県教育委員会による児童健康増進事業「スポーツチャレンジ」の有効性検証	佐賀県教育委員会および各学校と連携し、将来的な佐賀県の子どもにおける健康状況の改善を図ることが目的。第一歩として、県教委によって行われてきた「スポーツチャレンジ」事業について、健康関連指標との検証を行う。また、この事業が、児童の校内での身体活動に及ぼす影響、児童の体組成（骨格筋量や体脂肪量）に及ぼす影響について解明する。
2	佐賀大学	医学部附属病院	江頭 絵里奈	さが・子どもから始める生涯型肥満対策プロジェクト	県内の学校において体重管理の重要性に関する教育を推進し、県民が等しく健康に関する知識及びスキルを習得できる環境づくりを進めることで、健康寿命の延伸、健康格差の縮小を図ることが目的。体重管理に効果的とされる生活習慣について、県内の小中高特別支援学校を対象とし、児童生徒が楽しく参加しやすい「体重管理体験型キャンペーン」を実施する。その後のアンケートから、取り組み状況、生活の変化や継続性を把握し、科学的根拠に基づく健康体重知識を児童生徒に提供する。
3	佐賀大学	農学部	鄭 紹輝	ダイズの青立耐性の品種間差および発生対策の検討	ダイズの主要生産県である佐賀県において、収量ロスや収穫放棄の大きな要因となっている「青立」に注目し、その発生要因や品種間差を明らかにするとともに、青立抑制栽培法を確立することでダイズの安定多収生産に寄与することを目指す。ダイズに人為的に青立を誘発する処理（一定時期に一定量の英切除）を行い、植物の成長反応や成熟期における青立の発生程度を調査し、青立発生の品種間差を評価する。さらに、青立発生を誘発する英切除の閾値を明らかにし、青立の早期予測の可能性や青立を回避する栽培法を検討する。
4	西九州大学	健康福祉学部	占部 尊士	佐賀県における社会的養護児童の将来イメージ形成支援の実態調査と大学連携の可能性に関する研究	佐賀県内の社会的養護児童が将来の夢や目標を持ち、主体的に進路を選択できるよう、必要な支援のあり方を明らかにすることが目的。県内の児童養護施設、ファミリーホーム、里親家庭など支援関係機関等における進学状況や将来への支援の実態と課題について把握する。また、施設職員等へのアンケート調査および聞き取り調査を通して、将来へのイメージ形成に関する支援の内容、進学や進路選択における阻害要因、必要とされる体験機会等について整理する。さらに、大学との連携による将来へのイメージ形成支援の可能性について検討し、今後の地域支援の基礎資料としてまとめる。
5	西九州大学	リハビリテーション学部	中村 雅俊	SAGA-ACTIVE (Assessment of Community acTivities for healthy agIng and Vitality Enhancement)プロジェクト～運動機能の「見える化」で変える通いの場～	佐賀県としてエビデンスに基づく効果的な介護予防を推進し、市町が実施する介護予防事業への技術的支援の充実を図ることが目的。介護予防事業の効果を科学的に検証するとともに、市区町村間で客観的な比較を行うため、同一の評価指標を同一の精度で測定できる「共通言語」の構築を目指す。県内の通いの場において、自動計測システムを導入し、測定者や会場が異なる場合でも均一な精度での測定を実現し、標準的な測定プロトコルとして確立する。
6	西九州大学	リハビリテーション学部	植田 友貴	eスポーツやデジタルゲームを活用した健康増進の効果検証とeスポーツSAGAモデルの構築	佐賀県内のeスポーツやデジタルゲームを活用した高齢者の健康増進や介護予防の取組について、専門的知見に基づく効果検証を行い、心身機能への影響や安全性等に関する客観的なデータを得ることが目的。県内の事業所及び行政と協力し、既存のデジタルゲームを取り入れた介護予防事業等の効果検証を行う。同時に心身機能の向上とプレイスタイルの関係性を分析することにより、健康増進に効果的なeスポーツの導入プログラムである【eスポーツSAGAモデル】を創出し、県民の健康増進及び佐賀県のeスポーツの聖地化にも寄与する。

2 県提案

番号	大学名	所属	教員名	テーマ	概要
1	佐賀大学	医学部	小林 孝巨	佐賀県における運動器健診を活用した骨折予防の実装型政策研究	佐賀県民の骨折の原因を分析し、その結果を踏まえた骨折予防の施策を企画立案し、実施することが目的。県内各地域において、高齢者を対象とした骨、関節、筋肉などの運動器健診を行い、分析用データベースを構築する。構築したデータベースから、佐賀県民の骨折の原因を分析するとともに、得られた分析結果を根拠とする佐賀県民に適した骨折予防のための施策を企画立案し、実施する。
2	佐賀大学	農学部	木村 圭	食用紅藻類の閉鎖系陸上養殖技術の開発	佐賀県内において、人工海水を用いた安心安全な紅藻類の閉鎖系陸上養殖技術の確立を目指す。この海藻を配合することにより、動物性調味料に代わる革新的な純植物性調味料を製造し、その適性を実証する。また、海藻の種苗生産を目指すべく、その検証を行う。

(参考)

◆R8年度TSUNAGIプロジェクト連携事業一覧(継続)

Ⅰ 大学提案

番号	大学名	所属	教員名	開始年度	テーマ	概要
1	佐賀大学	経済学部	早川 智津子	R6年度	外国人の佐賀でのしごと・暮らし環境創出のための質的・量的研究	県内の外国人・企業へのヒアリングと県外事例の調査等を通じて、佐賀県で働く外国人のしごとと暮らしの基盤となる環境整備や佐賀県内の外国人材活躍・定着の施策立案に役立てる。
2	佐賀大学	医学部	阪本 雄一郎	R6年度	一人ひとりの価値観に寄り添った終末期医療・介護を実現するためのカードゲームを用いた意思決定支援ツールの開発	人生の価値観や終末期に関する意思決定の事前確認は医療・介護の領域において極めて重要である。意思決定支援ツールとして佐賀県らしい温かみのある手法を佐賀大学芸術地域デザイン学部と連携し全国モデルとなりうるオリジナルゲームを開発する。
3	佐賀大学	理工学部	三島 悠一郎	R6年度	ユーザフレンドリーなIoT水位計の活用によるクリークの水資源管理の高度化	流域治水対策としてクリークの事前放流は有効な手段の一つであるが、水位管理に必要な情報が散逸し、操作人の経験則に基づく運用がなされている現状である。 このため、クリークの形状や水流の経路情報の集約、ならびに簡易水位計による現場観測を行い、汎用性の高い水位現況モデルを構築することで、数的根拠に基づいた水位管理の実現を目指す。 また、任意地点での推定水位把握・洪水貯留容量の可視化・浸水到達時間の予測といった、多角的な視点での評価手法を検討し、流域治水効果を”見える化”することで、事前放流の取組に対する県民への普及を図る。
4	佐賀大学	農学部	徳田 誠	R6年度	昆虫および野鳥類による養鶏施設への高病原性鳥インフルエンザ運搬可能性の検証	養鶏施設への侵入や病原体の媒介が懸念されるクロバエ類やハシブトガラスを対象に、高病原性鳥インフルエンザウイルスを媒介する可能性を検証するとともに、家禽類への高病原性鳥インフルエンザの感染防止対策を立案する。
5	西九州大学	健康福祉学部	土井 幸治	R6年度	障害児等支援における小学校と放課後等デイサービス事業所による計画的・行動的連携のあり方に関する研究	障害児等の支援における特別支援学級と放課後等デイサービスの連携の実態を明らかにし、専門性や組織風土の異なる教育と福祉の効果的な連携のあり方を示していく。
6	佐賀大学	医学部	梅崎 靖	R7年度	Re-BORNプロジェクト:産婦人科医の復職支援と地域医療支援を両立するリスクリング教育モデルの構築	“育児休業等から復職したいのに戻れない産婦人科医”の復職を支援するため、復職希望医等に向けた教育カリキュラムを開発し佐賀大学医学部附属病院及び地域中核病院等で運用する。 また、教育カリキュラムを受講した産婦人科医が、“人材が不足している地域の医療機関”に復職することで、「医師の再教育」と「地域医療の支援」を同時に達成できる実装モデルの構築を目指す。
7	佐賀大学	農学部	井上 奈穂	R7年度	佐賀県産農水産物の未利用資源活用を目指した抗炎症性機能物質に関する研究	海苔や柑橘等の規格外品について、糖尿病や心臓疾患等の生活習慣病を引き起こす慢性炎症を抑制する「抗炎症作用」を評価・検証し、生活習慣病の予防が期待される機能性食品素材等への利用展開を図る。
8	佐賀大学	農学部	草場 基章	R7年度	エフェクター遺伝子を標的としたLAMP法による炭疽病菌潜在感染イチゴ株のOn-site診断法の開発	佐賀県のイチゴは全国7位の生産量を誇るが、近年の夏期の高温により炭疽病の発生が増加し、収量低下を招いている。 そこで、特別な実験器具を必要とせず、生産現場でのOn-site診断にも利用が期待でき、かつ病気を引き起こす菌のみを確実に検出する潜在感染株診断法を開発し、健全株の育成による収量の安定化を図る。
9	佐賀大学	農学部	吉賀 豊司	R7年度	生物機能を活用した土壌病害抑制方法の開発	佐賀県の主要な園芸作物において収量低下や品質劣化などの深刻な被害をもたらす各種土壌病害及び線虫類に対し、糸状菌食性線虫の利用、未利用資源の活用、並びに有用菌類との相乗効果を利用した被害抑制技術を開発する。
10	西九州大学	デジタル社会共創学環	小形 幸平	R7年度	佐賀茶園のスマート管理に向けたドローンリモートセンシング技術の実証と普及	県内茶産地において担い手不足や規模拡大等に伴い、茶園管理の負担が増加し、樹勢低下や病虫害発生による品質低下が問題となっている。そこで、マルチスペクトルカメラ搭載のドローンとデータサイエンスを組合せた樹勢診断や病虫害監視の技術を確立する。また、これらを遠隔で確認できるスマホアプリを開発し、軽労的で高品質な茶生産が可能となる次世代型茶園スマート管理モデルの構築を行う。
11	西九州大学	健康福祉学部	園部 ニコル	R7年度	佐賀県における多文化共生社会の構築:3つの調査を通じた政策への貢献	多文化共生に関する県民の意識及び県内在住外国人の生活実態を調査・分析することで、現状と課題を明らかにする。また、データを基に、佐賀県における持続可能な多文化共生社会の構築と地域課題の解決の方策を検討する。

2 県提案

番号	大学名	所属	教員名	開始年度	テーマ	概要
1	佐賀大学	農学部	木村 圭	R6年度	色落ちノリの色調向上試験	近年、ノリ養殖開始直後から色落ち被害が発生している。特に、二期作にあたる冷凍網期に使用する冷凍入庫網の色落ちが大きな課題となっており、現場で実践可能な対策を早期に確立する必要がある。そのため、色落ちした冷凍入庫網を陸上施設等を用いて色調を向上させる技術開発に取り組む。
2	佐賀大学	総合分析実験センター	兒玉 宏樹	R6年度	陶磁器製造業から排出される廃石膏の農業分野での有効利用に関する研究	全国有数の陶磁器産地である佐賀県では陶磁器の成形に大量の石膏型が利用されている。廃棄処分されていた使用済み石膏型の有効活用のため廃石膏型を原料とした農業資材の開発と有効性の検証を行い、持続可能な産業構造の構築を目指す。
3	佐賀大学	農学部	折田 亮	R7年度	気候変動への対応を見据えた新規増養殖対象二枚貝の抜選	近年、気候変動に伴う環境変化であると考えられる高水温や、豪雨による海域の低塩分化、貧酸素水塊の発生頻度等により、漁場における二枚貝資源量の減少に拍車がかかっている。今後、将来にわたって漁業者の収入を増加・安定させるには地球温暖化が進行する状況下においても漁獲対象となる新魚種を模索する必要がある。本研究では、現在漁獲対象となっていない二枚貝種に注目し、高水温や低塩分、貧酸素耐性を評価し、新たな漁獲対象種となる二枚貝を抜選する。